

平成29年度スーパーバイザーによる学校教育支援事業報告書

研究テーマ 「 笑顔とやる気にあふれた子どもの育成 ～道徳と特別活動で子どもを育てる～ 」 鳥取市立美保小学校

スーパーバイザー：文部科学省教育課程部会 道徳教育専門部会委員
畿央大学 島 恒生 教授

1 はじめに

本校は、児童数642人、鳥取県一の大規模校である。学校周辺には住宅地が広がり、従来からの住民も多くいるが、転入家庭や転勤家庭も多く、地域のつながり・児童保護者のつながりが希薄な傾向にある。そこで、「つながる力」を育成するために、平成27年度まで特別活動の研究を積み上げてきた。その結果、自尊感情が高まり、学級集団の一員として自分の発言や行動に責任をもつ児童が増え、学校全体の自治力が高まってきた。が、指示待ち傾向であることや、コミュニケーション力の不足などの課題が残った。これらの課題を克服し、本校がめざす「笑顔とやる気にあふれた子ども」を育成するためには、子どもの内面の力を育てることが必要であると考え、道徳を研究教科に加え、副主題を「道徳と特別活動で子どもを育てる」として研究を推進してきた。道徳の時間に自己の生き方についての考えを深めさせ、道徳の時間に培った豊かな心を特別活動の場で実践し、自主性・主体性や人とのつながり・コミュニケーション力を育てる。心が育てば学力も伸びると考え、畿央大学教授島恒生先生の指導を受けながら、「考え、議論する道徳」の授業づくりに取り組んできた。

2 研究のねらい

◎研究仮説

「考え、議論する道徳」の時間を充実させて豊かな心を培い、その力を特別活動の場で実践することを通して、一人一人が達成感と自信をもち、学校全体の自治力が向上し、学力の向上につながるであろう。

- ①主体的に価値を自覚する「考え、議論する道徳」の授業づくりを行い、心の内面「道徳性」を養う。
- ②道徳と特別活動の関連を重視し、道徳の時間に培った豊かな心を特別活動の場で実践して自己を活かす能力を高める。

3 研究内容

(1) 島先生の指導によるめざす道徳授業の共通理解

「行い、行動」を支えている心の内面「道徳性」を養うことを目標とし、子どもに考えさせる授業づくりを行うことを、まず共通理解した。発達の段階を押さえ、子どもに「えっ」と思わせる問いとそれをみんなで考え合い発見できる授業を行い、子どもたちに手柄を与える授業をめざすことを確認して、共通実践した。

| | |
|---|---|
| <input type="radio"/> 思わず、ぐっと考えたくなる授業 | <input type="radio"/> 生きることに希望や意欲がもてる授業 |
| <input type="radio"/> 隣の友達と話したくなる授業 | <input type="radio"/> 自分に自信がもてる授業 |
| <input type="radio"/> 初めて考えたという授業 | <input type="radio"/> 自分の誇りを育てる授業 |
| <input type="radio"/> 子どもたちが発見し、手柄となる授業 | |

(2) 考え、議論する道徳の授業づくり

① 道徳的価値レベル、第三層に切り込む授業

教材を3段階レベルで分析し、第二層の心情や考えの読解、活動の感想のレベルから、道徳的価値についての自覚を深める第三層に切り込む授業をめざして教材研究を行い、模擬授業などを通して、中心発問、第三層に切り込む発問を考えた。

| | | |
|-----|----------|------------------|
| 第一層 | 教材レベル | 出来事や行い、行動や活動 |
| 第二層 | 読解レベル | 登場人物が感じたこと、考えたこと |
| 第三層 | 道徳的価値レベル | 道徳的価値、考え方や生き方、信念 |

実践例

| 学年 | 主題名 | 教材名 | ◎中心発問 ●第三層に切り込む発問 |
|-----|----------------------|----------|--|
| 1年生 | たいせつにつかおう C— (10) | きいろいベンチ | ◎はっとした二人は、どのようなことに気が付いたのでしょうか。 ●みんなで使うものは、なぜ大切にしないといけないのですか。 |
| 3年生 | 本当の親切 B— (7) | 心と心のあくしゅ | ◎この後、「ぼく」はどうしたと思いますか。それはなぜですか。 ●本当の親切とは、どのようなことですか。 |
| 5年生 | 精いっぱい生きる D— (19) | 命のアサガオ | ◎お母さんは、なぜ骨髄バンクを広めるためにアサガオの種を配ったのでしょうか。 ●「精一杯」生きるとは、どういうことですか。 |

② 「問い」が子どもの中に立つ授業

子どもの心の中に「あれ?」「どうしてだろう?」と問いが立つ中心発問、補助発問を考えることと同時に、子どもの発言にタイミングよく「切り返す」ことによって、子どもの思考を深め、第三層へとつなぐことをめざした。お互いの授業を見合うことを通して、効果的な切り返しの言葉、タイミングについての研修を深めた。

| |
|--|
| ○ 効果的な切り返しの言葉の例 |
| ・ どういうこと? ・ わかりやすく説明して。 |
| ・ 先生わからないんだけど、誰かもう一度説明して。 |

③ 各学年のねらいを明確にした授業

低・中・高学年の縦のつながりを考えて、学年のねらいに応じた学習となるように、教材分析を行った。その際、4つの視点の特徴をヒントにねらいを考えた。

| |
|-----------------------------|
| Aの視点・・・自分の弱さに打ち克つ。 |
| Bの視点・・・相手のことを最大限に大切に。 |
| Cの視点・・・集団の中に、自分もいる。 |
| Dの視点・・・ちっぽけだけど、とてつもなく大きなもの。 |

実践例

| | | |
|----------------|-----|---------------|
| 親切・思いやりのねらいの視点 | 低学年 | あたたかさ。 |
| | 中学年 | 自分がしてほしいこと。 |
| | 高学年 | 相手の状況まで考えること。 |

④ 思考の場としての板書

板書は子どもたちの「思考の場」であると考え、道徳的価値に関わって、整理された第3層の主張のある「構造的な板書」をめざした。そのために、授業の始まりのときの子どもたちの考え、第三層につながるキーワード、子どもたちみんなで見つけたねらいに対する価値を必ず書くようにした。



【1年生 きいろいベンチ】

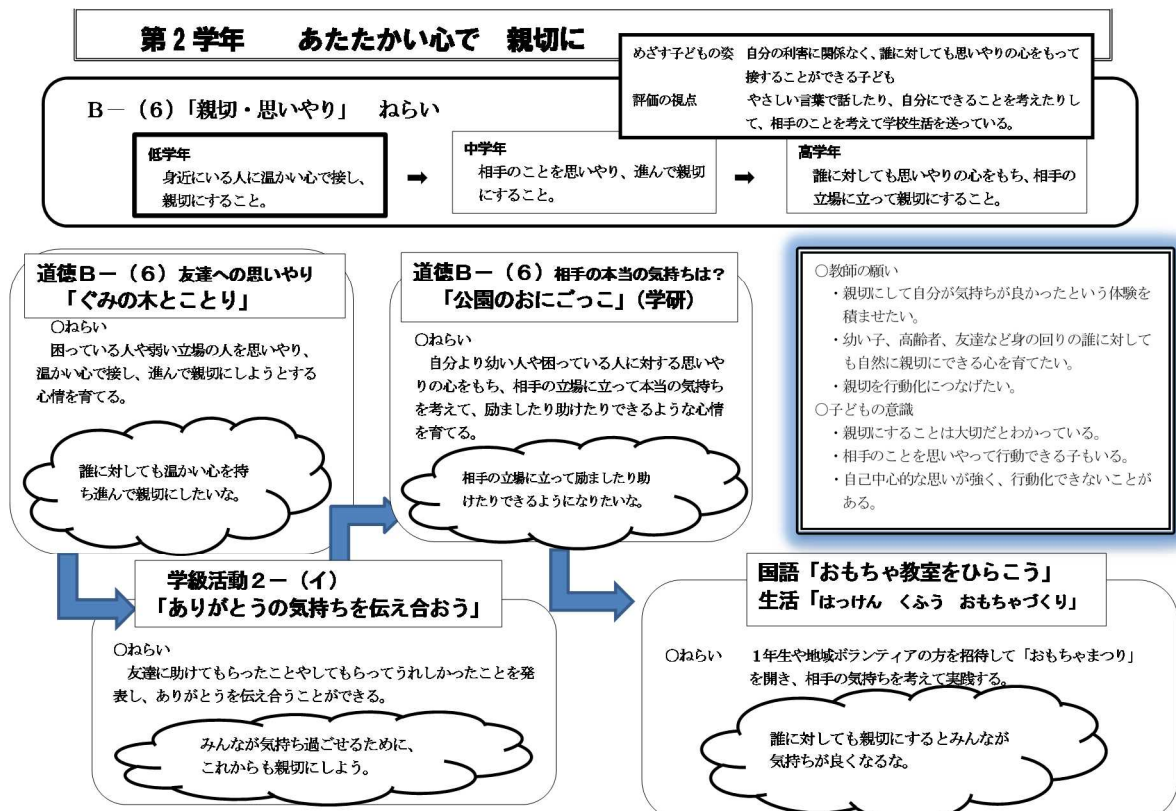


【3年生 心と心のあくしゅ】

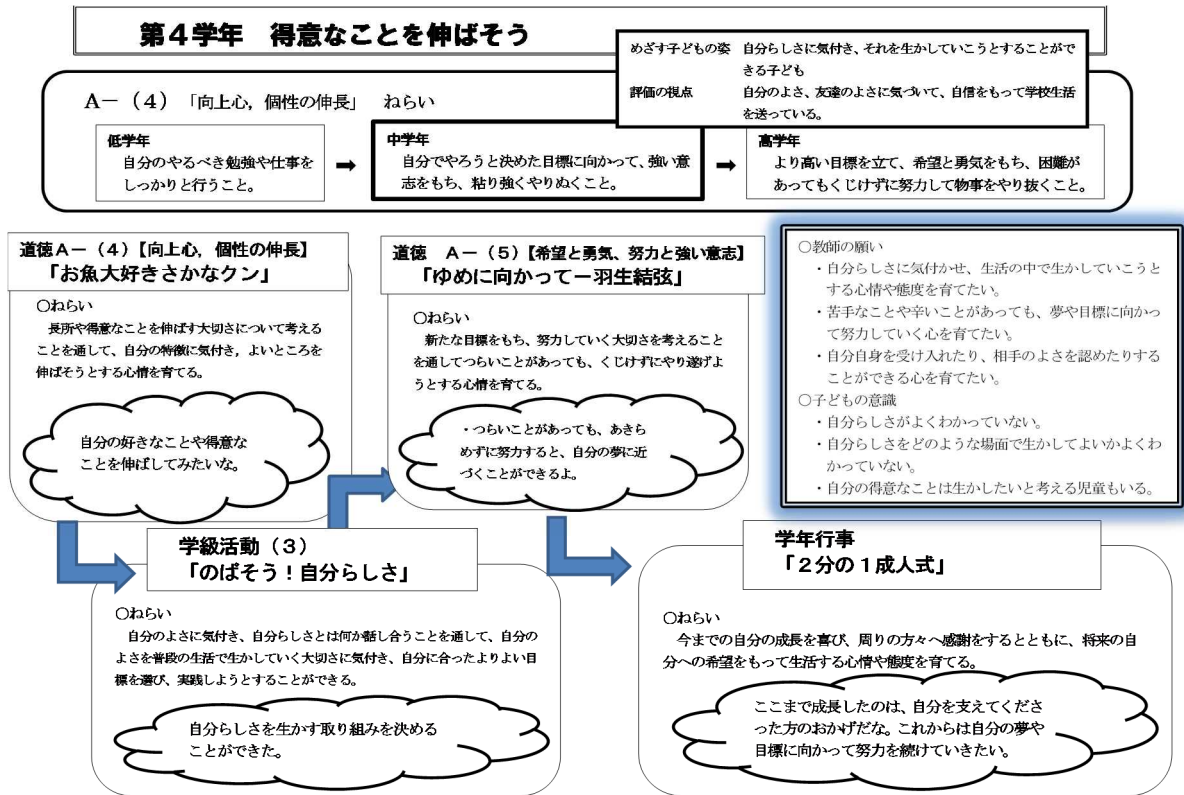
(3) 道徳と特別活動の関連

道徳と特別活動のつながりを意識するために、子どもの思考の流れでつないだ構想表を作成した。まずは、本校の道徳重点4項目「A希望と勇気、努力と強い意志」「B親切、思いやり」「Cよりよい学校生活」「D生命の尊さ」について全学年が作成し、縦のつながりと、道徳で培った豊かな心を特別活動のどの場面で実践させるのかを共通理解した。特別活動の場での子どもたちの姿に何をねらうのかを共通理解することで、それぞれの立場で子どもたちへのプラスの声かけができるようになり、子どもの姿の見取りも焦点化できた。さらに、各学年の重点項目についても構想表を作成し、実践している。

○学校の重点項目「B親切、思いやり」の2年生の構想表



○学年の重点項目「A向上心、個性の伸長」の4年生の構想表



実践例

| 学年 | 重点項目 | 単元名 | 特別活動での実践の場 |
|------|-------------------------------|----------------------|---|
| 2年生 | 親切、思いやり B- (1) | あたたかい心で、 親切に | ・学級活動 (2) 「ありがとう」の気持ちを 伝え合おう ・おもちゃまつりをひらこう |
| 4年生 | 向上心、個性の伸長 A- (4) | 得意なことを伸ばそう | ・学級活動 (3) 伸ばそう！自分らしさ ・二分の1成人式 |
| 6年生 | 親切、思いやり B- (1) | 最上級生として | ・集会活動 1年生となかよしイベント をしよう ・児童集会 「チャレンジ美保っ子」 |
| 特別支援 | よりよい学校生活 集団生活の充実 C- (5) | みんなのために、 自分にできること | ・学級活動 (1) にこにこいろいろマーケッ トを成功させよう ・にこにこいろいろマーケッ ト |

4 スーパーバイザー 島恒生先生による指導助言

○道徳と特別活動

- ・ 道徳と特別活動のつながりをはっきりさせるための構想図の作成をする。構想図は子どもの意識でつなぐ。
- ・ それぞれの価値についての縦のつながりを共通理解し、学年に応じた学習、構想表を考える。そのためのヒントのひとつが「心のノート」である。

○道徳

- ・ 目指すのは、子どもが「横向く」授業。教材を読んでわかることではなく、わからないことを考えさせ、自我関与させる。
- ・ 子どもにたくさん話をさせる。そのためには「切り返し」が重要。
- ・ 「大切」という言葉は使わない。大切の中身を考えさせる。

○特別活動

- ・ 特別活動は集団活動がベース。学級活動（２）（３）の命は集団思考。何を考えさせるのか、どんな問いを投げかけるのが重要。
- ・ 学級活動（３）は、自分の可能性をさがすこと。よりよい、なりたい自分をイメージして、今しなければならぬことを考えるのがキャリア教育。

5 研究のまとめ

（１）成果

○子どもの姿

- ・ 子どもたちが道徳の時間を楽しみにするようになり、自分の考えを意欲的に書いたり伝えたりしようとするようになった。
- ・ 道徳の時間に、友達の考え方や感じ方を聴き、それを自己の生き方についての考え方に取り入れようとする姿が見られるようになった。
- ・ 自分の思いや考えだけで動くのではなく、相手の思いや立場も考えることができるようになり、つながりが深まってきた。
- ・ 児童会などの特別活動が充実し、自主性が育ってきた。

○教師

- ・ めざす子どもの姿、めざす授業のあり方と具体的な取組を共通理解したことで、授業づくりへの意欲が高まり、教材分析の力や授業力が向上してきた。
- ・ 子どもが力を発揮する場の設定へのアイデアが広がり、学校全体に活力が生まれてきた。
- ・ 子どものよさや可能性に目を向けるようになり、学級経営が充実してきた。

（２）課題

- ・ 道徳科の評価、特別活動での子どもの姿の評価の具体的指標についての研修を深める。
- ・ さらなる教材分析の力と授業力の向上をめざして、全職員が同じ方向で実践を積み上げ、どの子も活躍できる授業をめざす。
- ・ 学級から学年、学校全体へと学んだこと、培った力を広げ、学校全体の力とする。
- ・ 心と行動の一致をめざし、道徳と特別活動で子どもを育てる。

6 おわりに

本年度、文部科学省教育課程部会 道徳教育専門部会委員 畿央大学教授 島恒生先生に来ていただき、「考え、議論する道徳」の授業について、具体的に指導していただき、たいへん勉強になった。めざす方向が明確になり、みんなで授業づくりに取り組んだことで、我々職員集団のつながりも深まり、学校全体に今まで以上に活力が生まれた。今後も、共通理解、共通実践を続けみんなで授業力を磨き、「笑顔とやる気にあふれた美保っ子」を育てていきたい。